

# Economic Indicators

発表日: 2024年11月29日(金)

## 景気動向指数(2024年10月)の予測

～基調判断が「上方への局面変化」に上方修正か～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

### CI一致指数は2ヵ月連続の上昇

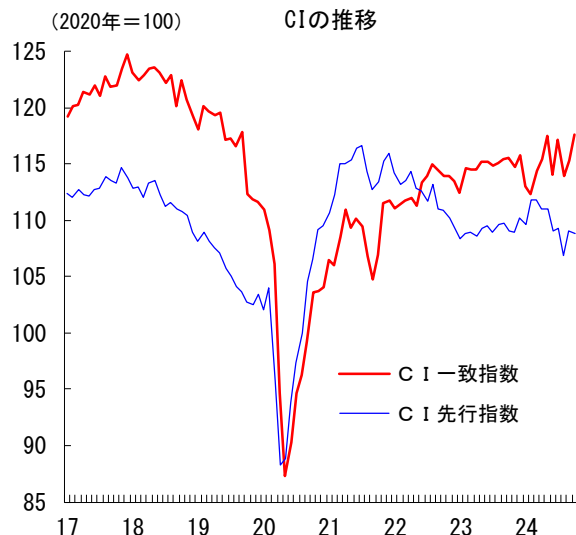
内閣府から12月6日に公表される2024年10月の景気動向指数では、CI一致指数を前月差+2.4ポイントと、2ヵ月連続の上昇を予想する<sup>1</sup>。内訳では、投資財出荷指数や鉱工業生産指数、耐久消費財出荷指数など、生産・出荷関連系列が押し上げ要因となる見込みである。台風による工場稼働停止からの挽回生産で自動車生産が大きく伸びたほか、生産用機械生産が一時的に急増したことの影響が大きい。

### 基調判断は「上方への局面変化」に上方修正の見込み

CI一致指数の基調判断は上方修正が予想される。24年5月から9月まで「下げ止まり」が続いていたが、10月は「上方への局面変化」となるだろう。10月分が予想通りであれば、「7か月後方移動平均前月差の符号がプラスに変化し、プラス幅（1か月、2か月または3か月の累積）が1標準偏差分以上」という上方修正の基準を満たす。

もともと、先行き不透明感は強い。10月の鉱工業生産指数は前月比+3.0%と、生産用機械や輸送用機械の押し上げが寄与する形で上昇したが、同時に公表された製造工業生産予測では、11月が経済産業省による補正試算値で前月比▲4.1%と、上昇分を完全に吐き出す見込みとなっている。また、12月の予測指数についても前月比▲0.5%と冴えない。7-9月期の鉱工業生産は前期比▲0.3%の小幅減産だったが、こうした予測指数の弱さを踏まえると、10-12月期も2四半期連続の減産となる可能性が否定できない状況だ。

前述のとおり、CI一致指数の基調判断が10月に「上方への局面変化」に上方修正される可能性は高いが、そのまますんなりCIが回復軌道に乗ると見るのは楽観的過ぎるだろう。当面、方向感に欠ける動きが続くことが予想される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2024年10月は第一生命経済研究所による予測値

<sup>1</sup> 12月2日に公表される法人企業統計の結果次第で予測値が変更になる可能性がある。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

